

平時からの感染症対策について

介護現場においては、1人の職員が複数の利用者を担当することが常であり、職員を介して感染症が広がる恐れがあります。まずは予防すること、そして発生した場合には、最小限に食い止めることが必要です。

感染対策を効果的に実施するために、介護職員1人1人が必要な事項を理解し実践できるよう、職員間での定期的な情報共有の場を構築しておきましょう。

【日頃から感染症発生時の対応までの流れ】

日頃の対応	<p>迅速な対応のための体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>職員向け感染対策研修の定期的な実施<input type="checkbox"/>感染対策マニュアルの整備・定期的な改訂<input type="checkbox"/>相談・連絡先の一覧作成・職員間共有 <p>早期発見のための日頃の対策や健康観察</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>利用者の健康状態を定期的にチェックし、看護師等への適時報告<input type="checkbox"/>職員の健康管理<ul style="list-style-type: none">健康診断の実施や健康管理の呼びかけ手洗いの徹底・十分な栄養や睡眠・体調不良時に無理な出勤をしない等<input type="checkbox"/>室温、湿度等環境管理に留意<input type="checkbox"/>市内の発生動向や周辺の発生状況の把握
感染症発生時の対応	<p>感染症の兆候を感知したら</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>発生動向（症状・人数・場所）の把握<ul style="list-style-type: none">利用者の健康状態を詳細に把握訴えの少ない方に対しては、検温等で対応かかりつけ医への適時報告や受診調整<input type="checkbox"/>疑いのある方は、早めに受診。重症者が発生した場合の受診体制の整備<ul style="list-style-type: none">基礎疾患等ある方が罹患した場合、重症化の恐れがあるため注意深い観察必要<input type="checkbox"/>利用者・職員の手洗いの徹底<input type="checkbox"/>個人防護具の適正着用、適正使用<input type="checkbox"/>面会者等に流行状況に合わせた注意喚起<ul style="list-style-type: none">施設の玄関に流行状況や対策の掲示等面会者に手洗いの徹底やマスク着用等の感染予防策を説明<input type="checkbox"/>流行状況に応じて面会制限等を考慮<input type="checkbox"/>感染拡大状況に応じて、食堂や共同のレクリエーション等の一時的な使用停止、ゾーニング（居室の分離）等拡大防止策の実施<input type="checkbox"/>感染拡大時は『感染症発生連絡票』を保健所に提出し、感染発生状況を報告

【令和6年 和歌山市保健所総務企画課 作成】



感染予防対策 Q&A

Q1 感染者が発生した時に頑張れば普段は何もしなくても良い？

A1 平時から手指消毒などの基本的な感染症対策を行っていない施設では、感染者が発生してから対策を行っても感染拡大を防ぐことはできません。職員が少ない時に生じた場合、何をすべきか、この機会に考えてみてください。

Q2 体調が悪くても休みづらいです。

A2 体調不良時に出勤すると、職場で感染を広げることになります。個人の努力だけでなく、体調不良の時には出勤しない体制を施設として決めておいてください。

Q3 利用者の体調が熱はないですが、いつもと違うような気がします。

A3 日常の中での些細な変化に気づくことは、日頃から利用者を見守っている職員だからこそできることです。症状等を記録し、医療職者に相談しましょう。

Q4 手指消毒をつい忘れてしまいます。

A4 日常生活の中では、よく手を使います。手指衛生を行わず、手が病原体に汚染されたまましていると、それだけで感染を広げることとなります。アルコール消毒液（濃度にも注意）は、濡れた手ではなく、乾いた手に使しましょう。汚れが付いたときは、手指消毒をしても消毒効果が得られません。石けんと流水で手洗いをしましょう。

Q5 手袋はずっと着けておけば手が汚れない？二重手袋だと安心？

A5 検品していても、手袋に小さい穴（ピンホール）がある場合があります。内側の手が汚染されることがあります。手袋使用後はそのたび手指消毒が必要です。『二重手袋をしているから安心、内側の手袋はキレイ』と思い込み着用し続けていることはないでしょうか。

Q6 ガウンやエプロンはずっと着けていれば大丈夫？

A6 ガウン等はいつも身につけるのではなく、必要なときに使用し、使用が終わったら正しい方法で処理することが大切です。病原体が付着したガウン等を着用したまま移動することにより、他の利用者や居室、職員へ感染を広げてしまう可能性があります。

Q7 ガウン等へアルコール消毒液の噴霧をして、使い回しています。

A7 ガウン等へのアルコールの噴霧は効果が不確実であり、引火性や吸引毒性の危険性があります。また、ガウン等を使い回すことで、すでに付着していた病原体を自分に付けてしまう恐れがあります。適切な使用を、職員間で共有しておきましょう。

